

3.犯罪被害者等支援

佐々木

(2)性暴力・性犯罪は、被害者の心身のみならず、人権をも抹殺し、一生いやしがたい苦しみを与えるもっとも許されない犯罪の一つだ。

国は、2011年の第二次犯罪被害者等基本計画の中で、性犯罪被害者のためのワンストップ支援センターの設置促進を図っている。

性犯罪被害者のために①県のどの組織が拠点的功能を果たすのか②NPO法人山口被害者支援センターを機能強化して拠点化をし③病院をふくめた各組織が日常的に連携しているのか、それぞれおたずねする。

半田環境生活部長

①被害者等から相談を受けたそれぞれの組織が、関係機関・団体と連携しながら責任をもって

対応し、拠点機能としての役割りを果たしている。

②①で答弁したとおりなので、新たに拠点化することは考えていない。

③緊急時に備えて、日ごろから警察や男女共同参画相談センターなどは、協力病院や関係機関と連絡体制や情報共有など、連携体制を構築している。

2012年11月議会でも、性暴力・性犯罪被害者のためのワンストップ支援センターの設置を提案しましたが、前進しません。

被害者が警察に届け出たのは、実際の13.3%(2008年)、18.5%(2012年)という統計もあり、泣き寝入りしている現実があります。

だからこそ、ワンストップの被害者支援センターの設置が必要です。



いま、上関原発建設計画は??

— 予定地埋め立て問題を中心に —

★10月25日、「いのちの海を守れ!さようなら上関原発」が上関町室津であり、1,200名の県民が参加しました。本来なら、この集会は当面、開催する必要のないものでした。

★二井元知事の示した「原発予定地の海面埋め立て免許延長についての法的整理」を継承すると言った山本

前知事と村岡現知事。実行していれば、上関原発建設計画は、ゼロからのスタートとなります。

★しかし、そうさせないために、前知事も現知事も内容をねじ曲げ、超法規的措置で上関原発建設計画の延命を図っています。国の政策を横にらみつつ、県が時間稼ぎに協力しているのです。



▲10月25日 上関町室津

